

HOME > NIFSについて > 安全衛生推進センター > 重水素実験について >

核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会 < 第25回 >

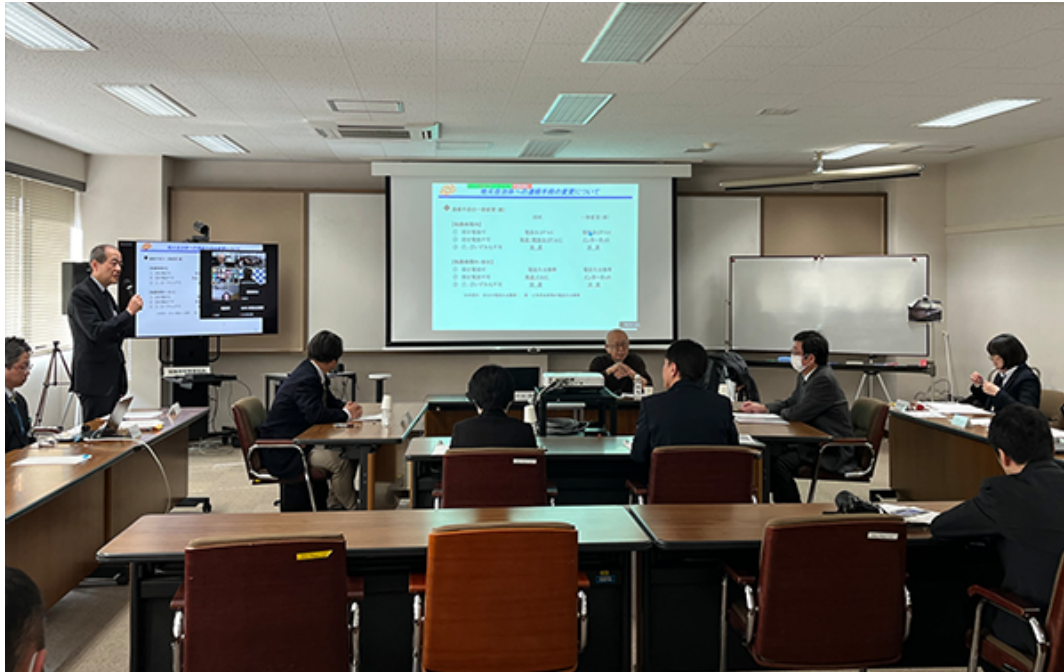
## 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会 < 第25回 >

重水素実験安全評価委員会(第25回)が、令和6年1月19日(金)に核融合科学研究所において、オンライン会議システム併用により開催されました。委員会には、8名の委員(現地3名、オンライン5名)と、オブザーバーとして関係自治体から4名(現地2名、オンライン2名)の方が出席されました。また、本委員会は公開されており、報道関係1社が取材に訪れました。

委員会は、片山幸士委員長(人間環境大学名誉教授)の進行により、議事に従い、研究所の長壁安全衛生推進センター長から「大型ヘリカル装置(LHD)における今後の安全管理体制等について」と題して、重水素実験終了後のLHDの放射線管理の考え方、放射線安全管理体制の変更、研究所敷地内及び周辺環境における放射線等のモニタリング(ガラス線量計及び環境水試料の採取とトリチウム濃度測定)、地元自治体への連絡体制、並びに令和5年度末から実施予定のLHDプラズマ実験スケジュール(予定)等について説明がありました。

委員から、地元自治体への連絡体制に関して、1月1日に発生した能登半島地震での通信状況を踏まえた質問があったほか、重水素実験が無事終了し、放射線の安全管理もしっかりと行われており評価できるとの意見がありました。また、モニタリングに関する今後の計画等について質疑があり、意見交換が行われました。

本委員会について、令和4年12月に重水素実験が終了し、LHDがRI規制法に基づく放射線発生装置に該当しなくなったことを考慮の上、今回の開催をもって終了し、今後のLHDに係る放射線管理については、研究所全体の放射線の安全管理を審議する放射線安全委員会にその機能を移すこととしました。また、これまでの経緯を引き継ぐため、片山委員長が放射線安全委員会に参加することとなりました。



## 議事

### 審議事項等

1. 大型ヘリカル装置（LHD）における今後の安全管理体制等について
2. その他

### 配付資料

資料1：核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿

資料2：大型ヘリカル装置における今後の安全管理体制等について

### 当日の会議録

[Twitter](#)

[Facebook](#)

[YouTube](#)

大学共同利用機関法人  
自然科学研究機構 核融合科学研究所

[English](#)

[スタッフオンリー](#)

〒509-5292 岐阜県土岐市下

石町322-6

TEL.0572-58-2222 Fax.0572-58-2601

[お問合せ](#)

[アクセス](#)

[見学について](#)

[サイトマップ](#)

[サイトポリシー](#)

[自然科学研究機構](#)

[総合研究大学院大学](#)

[核融合科学研究所](#)

[核融合エネルギーの実現に向けて](#)

# 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿

令和6年1月1日現在

## 【50音順】

いがらし みちこ 五十嵐 道子	フリージャーナリスト	
うへだ しんじ 植田 真司	公益財団法人環境科学技術研究所 環境影響研究部 部長	
かたやま ゆきお 片山 幸士	人間環境大学 名誉教授	[委員長]
きさお ま みこ 笹尾 眞實子	同志社大学研究開発推進機構 嘱託研究員 東北大学 名誉教授	
たまき ともふみ 玉樹 智文	石拾地区核融合科学研究所環境保全対策委員会 委員 元 島根大学法文学部 准教授	
ふくわ のぶお 福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授	
ふじ まさよし 藤 正督	名古屋工業大学先進セラミックス研究センター センター長	
まなべ たかゆき 眞部 孝幸	中京学院大学看護学部 学部長代行・教授 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 招へい教授	
ももしま のりゆき 百島 則幸	九州環境管理協会 理事長 九州大学 名誉教授	[議長代理]
もりした なお き 森下 直貴	京都府立医科大学 客員教授 浜松医科大学 名誉教授	
わたなべ かつし 渡辺 勝士	石拾地区核融合科学研究所環境保全対策委員会 委員 元 土岐市立泉西小学校 教頭	

## [オフザーバー]

土岐市、多治見市、瑞浪市、岐阜県の担当部長

## 重水素実験、周辺の放射線量測定

## 本年度末で終了

核融合研

核融合科学研究所(土岐市下石町)は19日、重水素実験が2022年12月で終了し、同実験以降、敷地内や周辺環境の放射線量の上昇は認められていないとして多治見市内や土岐市内の周辺環境で続けてきた放射線量の測定を本年度末で終

了することを明らかにした。

同日、研究所で開いた重水素実験安全評価委員会で報告した。研究所によると、重水素実験が終わり、新たな中性子やトリチウムの発生はない。大型ヘリカル装



最終回となった重水素実験安全評価委員会の会合。土岐市下石町、核融合科学研究所

置(LHD)は昨年9月、法令に基づく放射線発生装置から除外された。敷地内には放射線発生装置に当たる加速器があるため、引き続き管理区域を設け、敷地内や敷地境界の放射線のモニタリングは続ける。

周辺環境のモニタリングでは土岐川と支川など9カ所で年4回採水し、トリチウム濃度を測定しているが、同実験以降、濃度に影響は見られなかったとして、24年度は5カ所、25年度は1カ所へと段階的に縮小し、時期を見て終了する予定。

委員会は重水素実験の計画の安全性を評価するため2006年に設置され、開催は25回を数えたが今回で終了。委員長が研究所全体の放射線の安全管理を審議する「放射線安全委員会」に参加する形で機能を移す。

(小森直人)